

④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと）

本資料は、文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。
下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

- ◆ここに示されているものは、あくまで例であり、これ以外は「合理的配慮」として提供する必要がないということではありません。
- ◆複数の障がいを併せ有する場合には、各障がい種別に例示している「合理的配慮」を柔軟に組み合わせ検討しましょう。
- ◆記載していない項目についても、「合理的配慮」として提供する必要がないというものではありません。一人一人の障がいの状態や教育的ニーズ等に応じて検討しましょう。

④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと） 肢体不自由

※文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

◎道具の操作の困難や移動上の制約等を改善できるように指導を行う。

- ・片手で使うことができる道具の効果的な活用ができるように指導を行う。
- ・校内の移動しにくい場所の移動方法について考えることができるように指導を行う。
- ・実際の移動の支援をする。 等

①-1-2 学習内容の変更・調整

◎上肢の不自由により時間が掛かることや活動が困難な場合の学習内容の変更・調整を行う。

- ・書く時間を延長する。
- ・書いたり計算したりする量を軽減する。
- ・体育等での運動の内容を変更する。 等

①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

◎書字や計算が困難な幼児児童生徒に対し上肢の機能に応じた教材や機器を提供する。

- ・書字の能力に応じたプリントを提供する。
- ・計算ドリルの学習にパソコンを使用する。
- ・コミュニケーションを支援する機器（文字盤や音声出力型の機器等）を活用する。 等

①-2-2 学習機会や体験の確保

◎経験の不足から理解しにくいことや移動の困難さから参加が難しい活動については、一緒に参加することができる手段等を講じる。

- ・新しい単元に入る前に新出の語句や未経験と思われる活動のリストを示し予習できるようにする。
- ・車椅子使用の幼児児童生徒が栽培活動に参加できるよう高い位置に花壇を作る。 等

①-2-3 心理面・健康面の配慮

◎下肢の不自由による転倒のしやすさ、車椅子使用に伴う健康上の問題等を踏まえた支援を行う。

- ・体育の時間において膝や肘のサポーターを使用することができるよう準備する。
- ・長距離の移動時の介助者を確保する。
- ・車椅子使用時に必要な1日数回の姿勢の変更及びそのためのスペースを確保する。 等

②-1 専門性のある指導体制の整備

◎体育担当教員、養護教諭、栄養職員、学校医を含むサポートチームが教育的ニーズを把握し支援の内容・方法を検討する。

◎特別支援学校（肢体不自由、知的障がい）のからの支援を受けるとともに PT、OT、ST 等の指導助言を活用する。また、医療的ケアが必要な場合には看護師等、医療関係者との連携を図る。

- ・巡回相談や専門家チームを活用する。
- ・定期的にケース会議を持ち、情報共有するとともに必要な合理的配慮について検討を重ねる。等

②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

◎移動や日常生活動作に制約があることや、移動しやすさを確保するために協力できることなどについて、周囲の幼児児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。

- ・関係する教職員が集まって情報交換会を行う。 ・保護者対象の研修会を行う。
- ・関係者が集まって支援会議を行う。
- ・教職員や保護者向けの書籍・教材を購入・貸出しをする。等

②-3 災害時等の支援体制の整備

◎移動の困難さを踏まえた避難の方法や体制及び避難後に必要となる支援体制を整備する。

- ・車椅子で非難する際の経路や人的体制を確保する。
- ・移動が遅れる場合の対応方法を検討する。
- ・避難後に必要な支援の一覧表を作成する。等

③-1 校内環境のバリアフリー化

◎車椅子による移動やつえを用いた歩行ができるように、教室配置の工夫や施設改修を行う。

- ・段差を解消する。
- ・スロープ、手すり、開き戸、自動ドア、エレベーター、障がい者用トイレを設置する。等

③-2 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

◎上肢や下肢の動きの制約に対して施設・設備の工夫又は改修するとともに、車椅子等で移動しやすいような空間を確保する。

- ・上下式のレバーの水栓を設置する。 ・教室内を車椅子で移動できる空間を確保する。
- ・廊下の障害物を除去する。 ・姿勢を変換できる場所、休憩スペースの設置をする。等

③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

◎移動の困難さに対して避難経路の確保し、必要な施設・設備の整備を行うとともに、災害等発生後の必要な物品を準備する。

- ・車椅子、担架、非常用電源や手動で使える機器を準備する。等